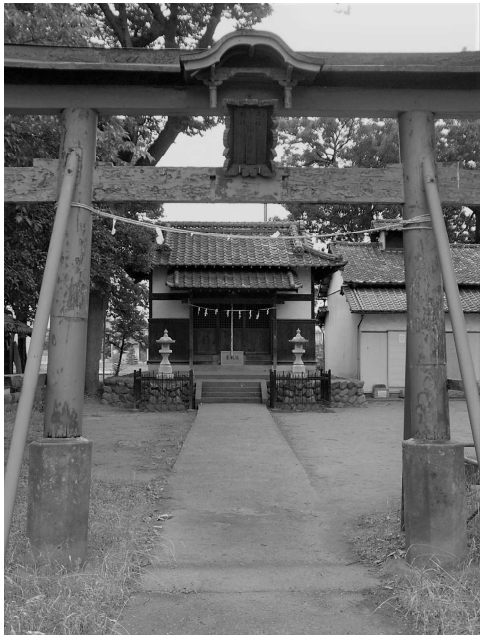
郷 土 こ ぼ れ 話

地域の神様 ⑩ 伊奈利神社 （ 原島 ）

－　伊奈利神社総代の皆さんにお話を伺いました　－

伊奈利神社は、前原島地区の鎮守さまです。創建された年は伝えられておりません。しかし、本殿には、神璽と共に伏見稲荷から別当の吉祥寺に宛てた分霊証書が残されているそうです。その日付が安永４年(1775年)となっていることから、江戸時代の中期には今のような姿で祀られていたものと推測されています。

祭神は、倉稲魂命(うかのみたまのみこと)と言い、稲の精霊が神様になったものです。五穀豊穣・商売繁昌・家内安全・養蚕繁昌等のご利益があると言われています。



伊奈利神社

総代長と７名の総代・５人の年番の人々によって、行事が執り行われます。年間の行事として、１月１日の謡初めがあります。元旦のお祝いとその年の役員の引き継ぎが行なわれます。初午祭は旧暦２月の初午に近い日曜日に行われ、繭の形をした御札や篠竹に繭玉の団子をつけたものが配られます。養蚕繁昌の願いの表れです。稲荷大神様が稲荷山に鎮座座されたのが初午の日だったと伝えられ、盛大に行われています。

春と秋には、お日待ち祭が行われます。この祭事は、役員の間で行われます。また、４月１日にはお獅子さまが行われます。年番は騎西町の玉敷神社からご本体をお借りして、社務所にて無病息災、家内安全の厄払いをし、お供物を持ち帰って家族全員でこれを頂きます。お獅子(しし)さまを伊奈利神社に一晩お泊めし、翌朝年番が玉敷神社までお送りします。この行事は伊奈利神社と直接関係はありません。大幡では、代の宮の下地区にもお獅子さまを祀る習慣があります。　伊奈利神社のご利益である「五穀豊穣」の五穀とは。米、麦、あわ、ひえ、大豆です。古くは、あわやひえが重要だったことが分かります。また、伊奈利神社ではきつねが大切にされています。これは収穫された穀物をねずみが食べてしまうのを狐が防いでくれるためです。

他にも、いくつかの伊奈利神社に関する言い伝えがあります。昔は、夏祭りがあったが、今は省略されています。人々の生活様式に合わせて変わってきたようです。神社の入り口に神輿殿があります。中に２基の神輿がありますが、このお神輿を出すと、大水が出ると言われています。それと、伊奈利神社にはご宝刀があると伝えられています。もしも刀を抜いてしまうと、その人は命を落としてしまう。人々はそう言い伝えてきました。

「埼玉の寺社」によると、昔からの伝統を重んじると共にお互いを尊重し合うという原島の人達の気風によって、伊奈利神社は厚い敬神の念に支えられて現在に至っている、と記されています。住む人々や生活習慣は変化していますが、地域の人々で協力し、地域の鎮守様伊奈利神社をこれからもしっかりお護りしていきたいと思います。

※お話を伺った人たち ： 新島　昇さん、栗原英一さん、新島康夫さん、栗原英廣さん、新島高雄さん、中田隆治さん、新島三好さん、新島好夫さん

文・写真：むらた　ひとし
大幡公民館だより　平成２９年　８月号